慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	景気循環による社会的弊害の緩和策
Sub Title	
Author	池田, 龍蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.8 (1923. 8) ,p.1405(65)- 1414(74)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230801-0065

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

雜錄

景氣循環による社會的弊害の緩和策

池田龍藏

「英國資本市場」の著者で劍橋大學の講師なるエフ、ラビングトン氏は最近「景氣循環」なる小冊子を公にした、之の中第九章の「近世産業組織と社會問題」は或る意味に於て資本主義に對する辯護でもあり、また資本主義より來れる景氣循環による社會的弊害の緩和策でもあり、一考の價値があるので之を次に紹介する事にした次第である。

今近代産業組織より來る景氣循環と社會問題との關係を説明するに第一景氣循環の變動の人間生活の福利に及ぼす影響が果して近代産業組織を責むべき程酷いものであるか、第二は産業組織の近代的方法を急激に變更する事なくして景氣循環より起る影響を輕減し得るか何うかの問題がある。

その中第一の問題に對する回答は極めて簡單である、即ち景氣循環の有無に拘はらず、近代産業制度はそれが生んだ社會的狀態に依つて非難されて居ると云ふ事である。第二の問題に對する意見は如何と云ふに、現在の産業制度はそれ以前に經驗した如何なる制度よりも一層大なる普遍的な物質的幸福を包含した組織であると云ふのである。若し意見が社會的に願はしき或る形式に就いての色んな異つた觀念の上に立てられた場合、且つその場合の必然的結果として個人的事情に依つて色づけられた際には議論の範

最古の歴史を有し

最新の化學に成れる！

金線サイダー

東京、横濱

金線飲料株式會社

代の如く最高才能の多くの部分と一國の能力の多くの部分を生産組織に先取された事はないのである。人間の物質的必要を充す爲めに現在の如き有力なる生産組織を適用した事はない。前世紀の歴史を見るに如何に物質の分布が粗であつたかを示して居ると同時に富者を問はず貧者と云はず、其の物質的幸福が急激に增進しつゝあつた事をも示して居る。クラハム博士は次の如く書いて居る。『十九世紀は他に何も爲す所がなかつたと假定しても年來の禍根であつた饑饉から西部歐洲の百性及び國民を救濟し得た事に對しては功績を認める價値がある。』と。然し實際に於てはそれ以上の事をして居る。英國に就いても然りで、ポーレー博士の示す所に從へは十九世紀の前三十年を除いて後七十年間に於て男子平均勞働賃銀は四五より百の割合に增して居る。

經濟組織に大生産力を與へた創造の自由は一面亦明かに富の大不均衡の狀態を助長せしめた即ちこれに依つて或る一部の人々は彼等の同輩を犧牲にして多額の收入を得る事が出來た。然しそれより以上に彼等自身の收入を增加し、更に社會全體の收入を增加し、更に社會全體の收入を增加するが如き組織を可能ならしめた。そこで尠くとも、人間は他人を犧牲とする事に依つてのみ富者となり得るものであると云ふ誤つた斷案を下す事は避けねばならぬ。米國の自働車王ヘンリー、フォードは他人から富を搾取せず富を創造した事を認めねばならぬ。獨得の能力と特殊な機會とで他人より一層有利に物資を働かし得た一部の人々が、彼等が新たに創造した富の大部分を當然保有すべきであると云ふ事が果して正當であるか否かに就いては尙ほ議論の餘地のある所である。若し收入の不平等と云

圍はある制限をしなければならぬが、然し若し現在の制度又はこれに代らるべき組織の下に達し得られる一般的歸結を得ると云ふが始き高尚なる問題を除去しもつと嚴密な意味の經濟的考察に議論を制限するならば、現在制度の下に達し得られる結果として一層明白な且つ稍正確に近い或問題に對して一考の價値がある、これを具體的に云へば、第一年々生産する富の高に就いて、第二この富を個人收入の形に於て分配する方法、第三景氣循環から起る失業に依る是等個人收入の不規則性に就いてである。

第一現在の産業制度に於ては各個人の生産にたづさはる部分は或る中央當局の決定に依つて割當てられて居ない事、換言すれば出生と同時に地位分限に依つて一定不變更のものでないと云ふ點から考察して見る。即ち各個人は彼の性質と彼の了解と、彼の境遇とに依つて或る特定な勞務を契約し、それと交換的に或る報酬を得るのである、この狀態は明白な事實であるが、然も尚ほ注目すべき事實である。クラハム博士著「獨逸及び佛蘭西の經濟的發達」中に一八〇八年迄には職業の自由選定は何れの國にも存在して居なかつたがウエルテンブルグでは其の後三十年間は如何なる職業もその地方當局の認可を必要とした事を述べて居る。近代産業制度が個人的創造と企業の自由の上に依つて居るのに比較すれば、其の間の對照の顯著なるに驚ろかざるを得ない、實際産業制度の强弱は主として此の本質的特性から來て居るかの如く思はれるのである。若し産業の自由を得た現在の組織が批難されるとすれば、それは生産を極度に增加する問題に彼是云ふのでなくて、社會の勢力が餘りに極端に物質的幸福の上に集中する傾向に就いてゞあらう。恐らく如何なる時代に於ても、現

性に就いてゞある。景氣循環から起る失業に依る人間幸福の破壞は現在の狀態からしては適當なる判斷を下す事が出來ない。即ち現在に於ては歐洲大戰爭てふ異常の出來事に依つて事態は著しく惡化されて居るのであるから、もつと前に遡及して見なければならぬ、その好材料はウエリアム、ヘヴリルヂ氏の著「失業」中に引用されて居る勞働組合の失業率（一年平均）である、これに依れば一九〇七年に終る二十年間に於て一ヶ年の失業者は最低二%より最高七・七%の變動があり、二十年間の平均は四・五%である事を示して居る。ヘヴリッヂ氏の示した數字は英國全體に亘つた總失業者を計つたものでないかも知れぬが左りとて實際の數より內輸に見たと信ずるやうな理由もないやうである。若し造船業、鐵鋼業、其の他景氣の循環的變動の影響が特に强く現はれる事業に於ける失業者の數字を取るならば恐らくもつと惡い結果が現はれるであらう。右二十年間に於ける是等事業の失業者は一年最低二・二%より最高一・四%の變動があり、平均は五・五%であつたのである。かゝる失業者の續出に對して景氣の循環のみが强ち唯一の原因でなく、他にも幾らも原因があるが、然し景氣と不景氣との間に一ヶ年間の失業者率が大なる變動のある事は景氣の循環的變動が失業發生に對する最大原因でない迄も、極めて重要なる原因となつて居る事は明白である。失業は必ずしも近代的產業制度に其の起原を有して居るのではない。然し近代になつて其の色彩が濃厚になつたと云ひ得る。マーシャル博士は一九〇七年に次の如く書いて居る。即ち中世紀の職工は失業など云ふ事なく、始終雇はれて居つたと考へられる理由がない。現在歐羅巴で雇傭狀態が最も不規則であるのは、今尙ほ殆んど中世

ふ事が、物資の生産に貢献する人々の技倆、能力及び種類の相異からのみ起り來るものとすれば正義等と云ふ根據から批難すべきではなからうと思はれる。然し其の收入不平等の源が何所にあるにせよ、凡そ人間は財産を殘すことに依つて一族の繁榮を圖らんとする傾向がある。而して遺産を繼承したと云ふ事から今度は機會の均等を失し産業的指導者の正當たる選擇を妨害し、爲めに社會的物資の管理は眞實に有能者の管理を離れる事にもなるのである。

收入の不平等は明白なる事實であるが、一年間に新に出來る富を均分すれば、熟練勞働の收入は增加する所か、減少すべき事は明白である。ポーレー博士は一九一一年に於ける英國の國民總收入の中から、政府の費用と、內地投資額とを差引き、殘部を國民の上に均分すれば、各家族の平均收入率は一年百六十磅であつたと計算して居る。更に今や收入の不平等が益々强められつゝあると云ふ事は出來ない。これに就いて一九〇七年マーシャル博士が彼の著書の經濟原論の中に次の如き意見を述べて居る。即ち中産階級の收入は富者の夫れに比し一層速かに增加しつゝある職工の收入も法律家、醫師等の自由職業の收入より一層急激に增加しつゝある、更に强健な不熟練勞働の賃銀も亦普通の職工の夫れに比すれば急速な增加振りを示して居ると述べて居る。

次に吾人が最も直接に關係して居る狀態に就いて述べる。即ち近代的産業制度は企業自由の基礎の上にある結果、好景氣時代には企業家の度に過ぎた樂觀に依つて新設備が急激に擴張されるが、扨て其の次には必然的に不景氣時代が現はれ、失業者が續出する狀態、換言すれば、賃銀勞働者階級に於ける收入の極端なる不規則

力の改善更に換言すれば不景氣時代が失業の最高に達する時であるから、その狀態の改善にあるのである。

現代制度に大いに加減せねばならぬ點があればそれは社會物資が獨立的企業家に依つて支配されて居ると云ふ事であらう。若しその改善が可能であるとすれば、それに代ふるに、或る全體的管理の形式を採用して景氣循環の勢力を緩和し得るであらうか。これは頗る大問題で、容易に論じ得られないが、二つの說明を提供し得る、即ち第一假りに全體的管理を實行したとしても直樣失業の緩和策とはならないと云つた方が事實に近い。大部分の國民の生活の標準が今尙ほ低く、且つ不安定であるのだから、著しく生產力を減退せしむるやうな制度は避けねばならぬ。然し假りに將來に於て產業組織が上述の全體的管理に變り、その新制度の下に於ても現在の生產力を維持し得ると豫想すれば、失業者發生の原因を緩和し得るであらうか。英國一國のみが產業制度を改善したにしても、其の國の景氣と海外貿易とが密接なる關係を有し、其の他外國が循環的變動に支配されて居る限り、其の國の貿易額の增減は免かれざるべく從つて一般景氣に著しき變動が生ずるのである。實際自國一國は扨て措き或る日本に於ける恐慌又は米國の取引不振を如何とする力もない。何等かの救濟策を講じて失業者數を減少し得るかも知れぬが全然禍根を絕つ事は不可能である。

第二は景氣循環の强さを減ずる事で、この第二の可能性は循環的變動の著しき原因となつて居る勢力を加減する事である。この勢力とは上述の如く取引確信の標準の變化で、これは物價の一般標準に依つて强められる。若し景氣の上騰期に於て取引確信の度に過ぎた增長を一層狹

紀時代の方法を操用して居る西部の非農業的産業と、中世紀的因襲が最も濃厚である東部及び南部歐洲の産業界に於てゞあると。

現代の産業制度に於て解決せねばならぬ問題は、嚴密な經濟的見地からしても決して一にして足らない。即ち如何なる主義に基いて、理想も違ひ能力も異る多くの勞働者をして、生産力を增し、同時に或る滿足を得せしむるやうに組織すべきか、如何にせば現代組織を變更して、個人收入の極端なる不規則性から起る一時的失業者の發生を防止し得る不等の問題である。

英國の制度の下に於ては最近迄人間の能力は主として生産をして最大量にする事に努めて來た。その經濟的結果として人間の物質的快樂の標準として前代の標準より引上げられたのである。かくする事に依って一方非常なる收入の不平等を馴致する事になつた。この收入の不平等の主要禍根は大部分遺産の自由に依つて起つた機會の不均等に存して居る。然し利用し得る總收入を均等に分配すれば幾多職工は現在より一層貧しくなる事であらう。斯くて失業の原因を減少する事が出來なくなる。失業の禍根はそれが收入の不規則性に基いて居る以上、最近に於ては保險制度を採用する事に依て部分的に緩和する事が出來た。然し保險制度位の事では未だ〳〵悲慘なる事を防ぐに足りぬ。而してこれが緩和策は容易に發見されるとは思はれない。以下述べんとする失業緩和策は姑息な手段を講ずべき事を避けて、事實其の原因を制限する樣な策を述べんとするのである。以上に述べし景氣の循環に間違がないとすれば、勞働者の雇傭に對する不規則性の緩和策は現代制度の改善にあらねばならぬ。即ち近代産業組織の根本狀態の改善、換言すれば循環を支配して居る能動的勢

これが直接緩和策となるのは、事業家の度に過ぎた樂觀を制限する事にある如く思はれる　即ち好景氣時代に於て製品の相場がこれを構成して居る原料及び賃銀等の騰貴に比し、急激に騰貴すると云ふ狀態から起る取引の人爲的刺戟を減ずる事に依つて樂觀傾向を輕減せんとするのである。而してこれが刺戟を減ずるには二つの方法がある。

第一の方法は取引の利益を變ずる爲めに、從來より一層敏速に賃銀率又は利率を整理する事である。即ち賃銀及び利率は物價の上騰期には從來より一層早く下落するやうにし、好況時代に於ける事業家の度に過ぎた樂觀の原因となる利益を減ずると同時に、不況期に於て大なる損失を輕減せんとするのである。かくて好況時代に於ける取引の異常の擴張は阻止され、不況時代に於ける激烈なる縮少は制限される事になる。次に第二の方法は物價の騰貴を抑制する事である。景氣循環の上騰期に於ては幾多の資源から實際的購買力の增加を招來する。然し購買力增加の最も重要なる部分は直接銀行と關係がある所である。英國に於ける堅實なる銀行制度は同國の景氣循環の强さを減じ得た事は普通認められて居る所である。そこで更に一歩を進めて、銀行が聯合して取引景氣の上向期に於ては其の貸出を制限し得るならば、一層適當な限度に購買力を制限し、その結果物價の昂騰を阻止し、度に過ぎた取引確信の增長を抑へ、必然的に取引の誤謬を矯正し得るのである。實際に於て取引が增加し、事業資金が旺盛となつた際に右の如き抑壓的態度に出るのは實行甚だ困難の如く思はるゝけれども、これが及ぼす所の重大なる事は看過する事が出來ない。

好況の次に必ず來る人氣動搖期に於ては銀行

い範圍に制限し得るならば、それには二つの條件が必要である、即ち第一事業家は好況時代を通じて發達して來る危險狀態に就いて一層充分なる了解を得ねばならぬ事で、次は事業家の投機的行爲就中産業的設備の擴張を制限する事が事業家に取つて商業的に有利であらねばならぬ事である、この中後者は特に重要である。一體景氣の上騰期に於ては幾多の事業は異常に有利となるので、從つて設備が急激に擴張され、多くの事業家は餘り擴張し過ぎたと知るかも知れぬ。即ち船主又は紡績業者は、新に計劃した船舶及び紡錘が愈〻働きを爲す頃には糸價又は傭船料運賃が無利益的標準に下落するだらうと云ふ事を豫想し得る場合がある、かく知りつゝも其の計劃を擴張する事に努める。即ち一年乃至二年間は次に來る不況時代に於ける配當の減少を償つて餘りある丈けの高率配當を爲し得るだらうと思ふかも知れぬのである。以上の如く考へて來ると、假りに事業家が、事情を良く知つて居つた所で、結局資本設備を著しく增して行つた方が個々事業家に有利である事を示すかの如く思はれる。然し這ふした場合は一般的代表的のものであるとは思はれない。即ち利益が容易に得られる時には、無經驗な素人的事業家や、不注意な無雜作な企業家の行爲が不健全な景氣の發展を促がし、幾多の不健實な企業が現はれ幾多の不當な冒險的仕事が行はれ、思惑買が行はれる。然し好況の次に必然的に來るべき不況時代に於ては不健實な事業は續々破産の憂目に遇ひ、極端なる金融の緊縮となり、幾多の思惑業者及び商人は多量の在庫品に惱まされる事になるが這ふなると初めて從來の方法が結局の所自分を利したものでない事、取引の思惑的擴張を防止すればよかつた事に氣がつくのである。

經濟學の科學的性質と經濟法則の意義

勝田貞次

凡そ吾等は經濟學の構成に關して對立せる二個の立場を考へ得ると想ふ、個人本位の立場と社會本位の立場とがこれである。個人本位の立場に立つものは經濟を以て營利と考へ營利經濟學を主張し、社會本位の立場に立つものは經濟を以て厚生の意義に解し厚生經濟學を主張する。

而して吾等としては營利經濟學をも厚生經濟學をも共に夫々の立場の範圍に於ては之を認めてやらなければならぬ、『圓い机』と『木の机』とを夫々の立場より机を說明せるものとして許す如く、營利經濟學と厚生經濟學とをも夫々の立場より經濟學を說明せるものとして許してやらなければならぬと想ふ。營利經濟學と厚生經濟學とは經濟學に對する二個の說明である。相容ないどころか却て相補ふ可きものである。詳言すれば營利經濟學と厚生經濟學とは經濟學其者の表裡二面に對する二個の說明として一方の說明洩れを他方が說明し他方の說明洩れを一方が說明して居るのである。

乍然、其代り營利經濟學も厚生經濟學も共に經濟學其自體でないことは吾等の注意しなければならぬ處である。營利經濟學も厚生經濟學も經濟學に對する一面の說明ではあるが經濟學其自體が何であるかを示さないからである。想ふに是れ未だ立場が不純であるからである、個人本位の立場も社會本位の立場も經濟學其自體に肉迫す可く餘りに不純である。從て吾等は茲に

の政策が最も重要である事、英國の銀行制度は最近の景氣循環に於て、恐慌に到達せしめなかつた事その結果不況期に於て取引の極端なる縮少を緩和し失業の續出を制限し得た事を述べて置いた。失業防止策として、好景氣時代に於ける取引の異常の發展を阻止する外、政府、都市及び其の他公共團體が、努めて建築又は道路の修繕等の經常費を不況時に節する事である。又或る特定の企業に對し國家補助を與へて金融の途を開く事も一策である。事業家の度に過ぎた樂觀の增長を制限する方法には上述の如く二つの方法があるが。この中第一條件である取引狀態に從つて賃銀率を一層敏速に整理すると云ふ事は甚だ困難な事である。然し吾人が痛切に要求するが如く、景氣の逆轉期に於て賃銀が從來より一層急激に下落すれば、佛主をして生產を繼續するのに餘り大なる悲觀を爲さしめなくて濟み、同時に景氣の上騰期に於ては賃銀が從來より一層速かに昂騰して取引の活動を過度に刺戟する事を防ぐ事は寔に望ましき事である。この政策を採用する事に依つて長年の問題であつた賃銀爭鬪の原因を減じ、景氣上騰期に於て不當に利益を多からしめ、取引豫想をして過度の樂觀に至らしめる原因の一部を撤去する事が出來るのである。更にこれに加ふるに、大藏省が紙幣發行高に或る制限を加へ又は銀行が聯合して貸出を制限するが如き政策を採用して物價の騰貴に或る制度の抑制を加へるならば、物價の騰貴から起る取引の人爲的刺戟の一部を緩和し、それに依つて取引確信の過度の增長を阻止し、好況及び不況期の强さを制限する事が出來るのである。』